

安全なまちづくり（防災）

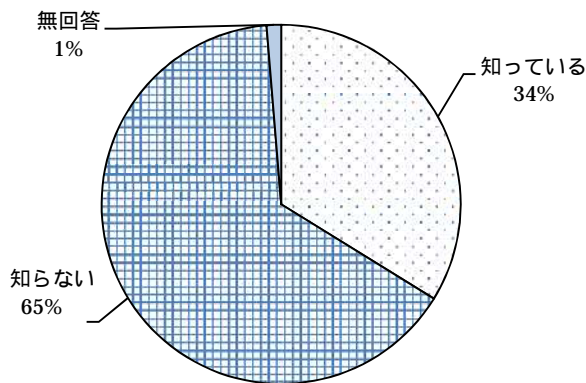
めざす状態

だれもが日頃から高い防災意識をもち災害への備えが整っている。

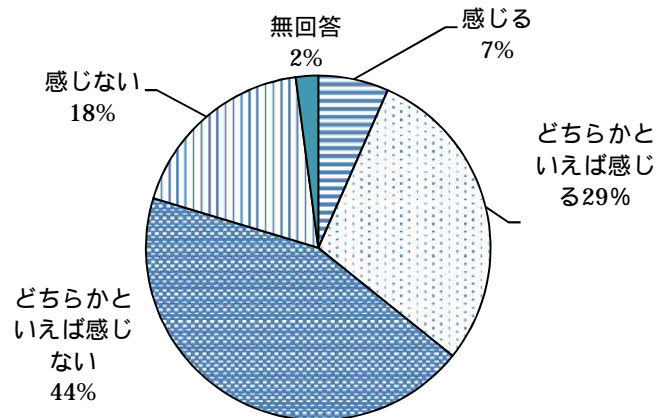
区の現状

- ・区内12地域で、自主防災組織による「避難所開設運営訓練」や「防災学習会」、小学生を対象とした「土曜防災授業」等、様々な取り組みが行われている。
- ・区災害対策本部の機能強化に向けた研修及び装備品の充実を図っている。

災害などの危機事象ごとの計画・マニュアルが作成されていることを知っている区民の割合



災害に対する鶴見区全体の危機管理の取り組みが進んでいると感じる区民の割合



課題

- ・近い将来に起こりうる災害に対し、自分が助かる方法を知り、そして隣近所が助け支えあうための防災活動が、各地域において自発的に行われるよう支援が必要。
- ・区全体の防災力強化の為に、地域の防災力だけでなく、区災害対策本部の機能を強化する必要がある。
- ・予想される災害に備え、区民・地域・区が取り組むべきことについて定めている「鶴見区地域防災計画」の認知度及び災害に対する危機管理の取組みが進んでいると感じる区民の割合が低い

具体的取組

- ・地域の特徴や被害想定を基に、地域住民や自主防災組織が日頃より取り組むことや、発災時の対応等、地域が防災活動を進めていくための手引きとなる「防災計画」について、全地域で作成されるよう支援を進める。
- ・災害時に活動が期待される区内小・中・高校生のうち、特に高校生に着目した継続的な防災学習を実施し、地域の自主防災活動と連携することで、地域防災力の向上を図る。
- ・区役所職員に対し、災害対策本部で与えられる役割ごとの行動マニュアルの徹底と、そのための研修を実施するとともに、避難所開設に必要な装備品について充実を図る。
- ・「鶴見区地域防災計画」、区が行っている防災対策事業について、広報紙やホームページなどにより広く情報を発信していく。

～これまでの取組の紹介・成果など～

(別紙のとおり)

- ・平成28年度 各地域の訓練・学習会実施状況
- ・鶴見区地域防災計画 概要版

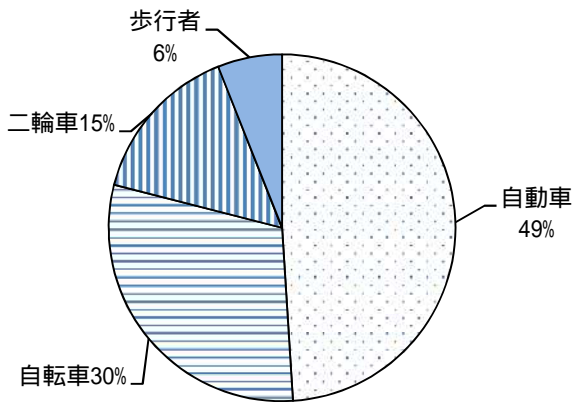
安全なまちづくり（防犯・交通安全）

めざす状態

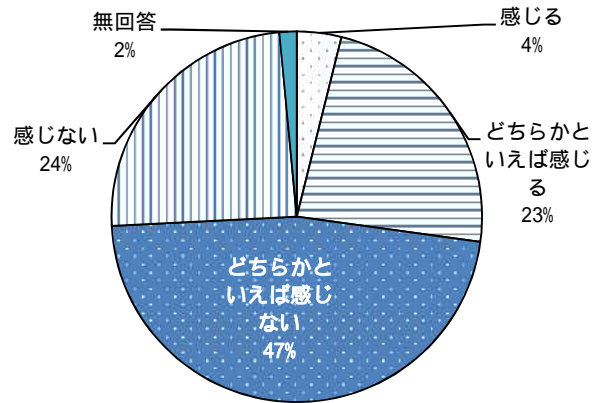
犯罪や交通事故のない、だれもが安全・安心にらせるまちになっている。

区の現状

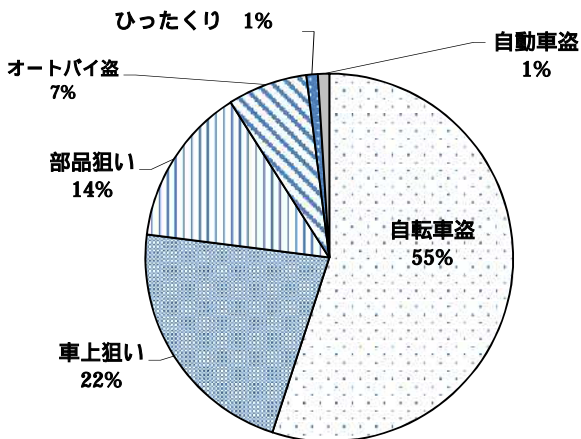
交通状態別死傷者割合割合
(鶴見区：平成29年8月末)



鶴見区全体の交通マナーが向上していると感じる区民の割合
(平成28年度区民アンケート)



街頭犯罪発生内訳
(平成29年8月末現在)



課題

- ・街頭犯罪発生件数の減少に向けて区民の防犯意識の向上を図るとともに、犯罪を起こしにくい環境づくりが重要である。
- ・区が、平成 25 年度より公設置・地域管理で進めている防犯カメラについて、大阪市が行う「子ども見守りカメラ」(公設置・公管理)との調整について検討が必要。
- ・交通事故発生件数減少に向けて、自転車利用者のマナーアップについての取組みを、引続き推進する必要がある。

具体的取組

防 犯

- ・区予算による防犯カメラ 24 台、防犯プレート 50 枚、防犯灯 20 台の設置
- ・防犯推進委員を中心に、各地域団体や警察署をはじめとする関係機関等が連携した区内一斉防犯活動の実施(毎月第 2 金曜日)(平成 24 年度より実施)
- ・ひったくり防止カバー・鍵の取付けキャンペーンの実施(毎月 1 回)(年間取付け 1,200 枚)

交通安全

- ・スケアードストレート学習(スタントマンを活用した交通安全教室)の実施(平成 26 年度より実施)
- ・放置自転車追放キャンペーンの取組み(区内 3 駅 毎月実施)

～これまでの取組の紹介・成果など～

設置年度	防犯カメラ設置台数年度別推移
平成 25 ～ 28 年度(区予算)	95 台(H25 27 台、H26 12 台、H27 24 台、H28 32 台)
平成 21 ～ 24 年度(各局補助設置)	192 台

設置年度	防犯灯設置台数
平成 26 ～ 28 年度(区予算)	60 台(H26 26 台、H27 13 台、H28 21 台)
平成 21 ～ 25 年度(建設局設置)	39 台

スケアードストレート学習

平成 26 年度(コミュニティ広場)	参加者数 約 350 名
平成 27 年度(鶴見商業高校・茨田高校)	参加者数 約 650 名
平成 28 年度(汎愛高校・鶴見緑地)	参加者数 約 1,500 名(汎愛高校 850 名、鶴見緑地 650 名)
平成 29 年度(鶴見緑地第 2 運動場))	参加者数 約 300 名